

# 研修・会議等報告書

平成 31 年 2 月 22 日

テーマ	調剤薬局を取り巻く環境と地域に根差す薬局づくり 戸田市の現状とこれからの戸田市		
日時	平成 31 年 2 月 22 日	場所	戸田市文化会館
主催者	戸田市薬剤師会	費用	薬剤師会会員店舗の勤務薬剤師 ¥1,000 非会員 ¥2,000
講師	埼玉県薬剤師会 常務理事 池田 里江子先生 戸田市 長寿介護課	出席者	41 名 (内薬剤師 40 名) 報告者 中川 奈津子

内 容
<p>スケジュール (プログラム等)</p> <p>開会挨拶 ( 染川会長 )</p> <p>調剤薬局を取り巻く環境と地域に根差す薬局づくり (池田先生)</p> <p>戸田市の現状とこれからの戸田市 (戸田市 長寿介護課)</p> <p>質疑応答</p> <p>閉会の挨拶 ( 鎌田委員長 )</p>
<p>概要</p> <p>☆調剤薬局を取り巻く環境と地域に根差す薬局づくり</p> <p>患者のための薬局ビジョンの進捗状況を把握・評価する指標 (KPI) として、かかりつけ薬剤師としての役割を發揮できる薬剤師を配置している薬局数が位置付けられた。</p> <p>財政再生計画における具体的な指標としては K P I 第一段階として 2022 年までに 60% となっている。</p> <p>薬機法の改定案で薬局・薬剤師のあり方があげられている。</p> <p>服薬期間中のフォローやセルフメディケーションへの貢献が求められている。</p> <p>高齢者支援</p> <p>地域包括ケアシステムに薬剤師も介入していくために多職種連携していく必要がある。</p> <p>薬剤師の役割を多職種の方にも知ってもらうためには合同勉強会やワールドカフェ (少人数のグループを作りテーマを決めて話し、短時間でメンバーを変えていく) で顔の見える関係を構築し、多職種が意見や情報を交わす場を持つ。</p> <p>☆戸田市の現状とこれからの戸田市</p> <p>介護度の要支援 1 と 2 の年齢が前期高齢者 (65~74 歳) の占める割合が顕著。</p> <p>2025 年以降、高齢者が増えすぎると病院・介護施設の不足、面倒を見る人の不足、公的なお金の不足が考えられる。</p> <p>在宅医療、在宅介護の推進が必要。</p> <p>地域包括ケアシステムについて (戸田市認知症カフェ、多様な主体による生活支援・介護予防サービス)</p> <p>高齢者在宅福祉サービスについて (紙おむつ支給事業、緊急連絡システムなど)</p> <p>自立支援のアプローチとしてその人に本当に必要な場所や生活を支えるサービスを創るという発想へ。(公的保険・フィットネス・宅配サービスなど)</p> <p>薬剤師に求める役割はかかりつけ薬局・薬剤師としてかかりつけ医などと連携しながら地域包括ケアへの参画していくこと</p>

**所感**

地域に根差した薬局を作るためには多職種と顔の見える関係を作り、健康に関する相談を気軽にできるような薬局づくりを目指すと感じました。薬局に少しOTCはありますが、購入される方は少ないのでセルフメディケーションでは市民が調剤薬局でOTCを買うというイメージが少ないのも課題だと感じました。処方箋を持ってきたことがないと入りづらい薬局から気軽に入れる薬局になるには健康相談会などを開くといいなと思いました。

これから高齢者が増えるにつれて自立支援していくサービスを充実させて介護に移行する高齢者の数を減らす又は遅れさせる環境を作っていくために薬剤師も介入していく必要があると感じました。

添付書類 特になし

配布資料 高齢者の福祉（サービス）ガイドブック